

2020年度 長野県岡谷東高等学校シラバス

教科	芸術	科目	音楽 Ⅰ	単位数	2	学年	1	コース	教養フロンティア 健康スポーツ
								必修・選択	必修 (芸術選択)
使用教材	教科書	●高校生の音楽1 (音楽之友社)							
	副教材	○コンコーネ50番 中声用 (全音楽譜出版社) ○音楽科で作成した資料 および 楽譜 ○音楽科で作成した映像資料 (DVD・VTR等)							

学習目標

- 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
- 歌唱活動・器楽実習等の経験により、読譜力(楽譜の横方向＝時間の経過)を高める。
- 器楽合奏のグループ学習を体験することにより、授業内で積み上げた知識を出し合い、互いに協力し合う姿勢を育てる。

学習方法

- 1学期末：授業時間内に筆記確認(考査相当)を行い、知識の理解度の確認をします。
- 2学期末：1～2学期で学んだ内容を基に、リズム実技・聴音・創作の確認をします。
- 3学期末：2学期迄に学んだ内容を基に、作音楽器のグループ合奏～発表会をします。
 基本的にはグループ練習の際の貢献度、発表会での演奏で評価をしますが、
 発表会当日に欠席した場合、個人対応の別課題で評価することになります。
- 実技を伴う評価の際には、「録音または録画」を行いますので予めご了承ください。

学習評価

○次の四つの観点に基づき、学習内容のまとめりと下の評価マトリクスにより評価を行い学年末に5段階の評定に総括します。

①関心・意欲・態度	○授業日程を把握し、計画的に課題に取り組む姿勢があるか。 ○積極的に授業に参加できているか。 ○必要とされる知識を自ら調べ、整理しようとする意欲があるか。
②思考・判断・表現	○作曲家や編曲者の意図について理解し、演奏に反映しようとしているか。 ○楽譜に書き込まれた情報を正確に読み取り、的確に表現できているか。 ○ファイルを用いて授業資料や楽譜を順番に整理できているか。
③技能	○正しい演奏姿勢、運指で楽器の演奏に臨んでいるか。 ○楽譜に忠実で、丁寧な演奏を心掛けているか。 ○ただ単に音を並べるだけでなく、表現力豊かな演奏ができるか。(実技を伴う評価は、録音・録画を行います)
④知識・理解	○題材の作曲家や、作品の背景について理解できているか。 ○楽譜に書き込まれた情報を正確に読み取ることができているか。 ○施設・楽器・演奏補助具等の使用法やマナーについて理解し、大切に使用できているか。(片付けも含む)

評価方法\観点	評価の観点				備考
	①	②	③	④	
出席状況	◎				
学習記録の記載・提出	◎	◎			学習記録表
課題の達成度		◎	◎	◎	筆記・楽譜作成・創作
実技	◎	◎	◎	◎	作音楽器・VTR録画

※表中の◎は観点の中でより重視するポイントです
 ※それぞれの評価の観点はA、B、Cの三段階で評価します。

学習方法等のアドバイスなど

- 「音楽」は「音を楽しむ」と表記しますが、授業という「学びの場」では「音学」になります。楽しいハズの「音楽」が「音学」になれば、必然的に「音が苦(手)」になってしまいます。学び、苦しみ、それが克服できると「本当の楽しみ方」が分かってくるのだと思います。
- 授業に欠席しないこと。実技科目は積み上げ学習ですから、欠席すると分からなくなります。
- 授業時のNGワードは「こんなの無理!」。最後まで諦めないで腰を据えて取り組むこと。
- 芸術科目は「失敗」を重ねることにより上達します。「失敗」を恐れずに頑張らしましょう。

年間学習計画

学期	学習内容 [時間数]	学習のねらい	学習活動 【評価方法】
4月	○オリエンテーション [1h]	・授業内容について周知徹底	・本シラバスの読み合わせ・注意事項 ・年間の授業計画
4～10月 授業の前半	○「校歌」を歌おう（毎時間） ○音程感覚と歌い方のトレーニング ○身近な歌唱教材を歌おう [20h]	・「校歌」を定着させる。 ・音名の読み方の確認と定着。 ・音程感覚と歌詞の扱い方。 ・拍子の感覚や音程感覚・強弱・フレーズのとらえ方を学ぶ。 ・表現力や読譜力を高める。	・最初の教材として「校歌」を扱う。 ・固定ド・移動ドの違いについて。 ・階名唱、歌詞唱を繰り返し行う。 ・「コンコーネ50番 中声用」を用い、歌い方を学ぶ。 ・その曲の持つ背景を分析し、表現力や読譜力を高める。
4～10月 授業の後半	○読譜力の養成 楽譜の横軸「時間の経過」を学ぶ [20h]	・読譜に必要な最低限の知識を学び、整理する。 ・リズム実技課題・聴音課題を段階的に学び、創作課題へと発展させる。	・単純音符と単純休符の種類名称、長さ関係、五線への記入方法、付点と複付点の扱い、全休符の特別な扱い、連符、タイ、拍子記号の読み方、読譜に必要な最低限の知識を学び整理する。 ・「4/4拍子・8小節」リズム譜を題材とした学習。
11～2月	○作音楽器を用いたグループ合奏 [20h]	・それまでに学んだ知識と演奏技術を使いながら、作音楽器（息づかい・指使いが必要）を使ってグループ学習をする。	・6～7人グループで協力しながら「3/4拍子」のカノン形式の楽曲を分析し合奏して仕上げる。 ・授業の最終回に発表会を行う。
4～11月	○身近なクラシックを鑑賞しよう [5h]	・教科書の鑑賞教材を中心に、一般教養として押さえておきたい音楽を扱い、芸術文化を味わう。	・テレビ番組の編集映像を資料に用い、それぞれの時代や国の芸術・音楽文化について学び、後世に名が残る偉大な作曲家についての知識を深める。
12月	○日本の音楽的年末恒例行事 [4h]	・日本の年末に必ず流れる「第9」について学ぶ。	・ベートーヴェンとは何者か？ ・「第9」はどのようなメッセージを伝えているか？ ・なぜ日本の年末に「第9」なのか？ ・CDやDVDの基本設計は、なぜ74分なのか？ ・ベートーヴェン 交響曲第9番「合唱」全曲鑑賞。